

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 柳澤 真由
所属 (School) 工学域 機械系学類
学年 (Grade) B4

留学先 (Name of overseas institution)
University of Malaya
留学期間 (study abroad period)
2019/2/24~2019/3/16

記入日 (Date) 2019/3/22

留学レポート Study Abroad Report

まず初めに私は SEP (Summer Enrichment Program) に参加して本当に良かったと思っています。私がこの SEP に参加しようと思ったのは、B4 で研究室に配属され、英語で研究内容を発表させてもらう機会があり、その時に英語で自分の言いたいことをうまく伝えられず、議論できなかったという経験から、大学院に入学する前に、英語力を少しでも上げたいと思ったからでした。また私は東南アジアに行ったことがなかったので、比較的時間のあるうちにこれを機にマレーシアに行って異文化に触れたいと思ったからでした。実際に SEP に参加してよかったことは大きく分けて 3 つあります。

1 つ目は、英語に関してです。SEP では 3 週間英語のスピーキングや発音、ライティング、リーディング、文法に関する授業を受けることができました。それは日本の英語の授業のような机で勉強するばかりの授業ではなく、様々な工夫がされていて、いつも楽しい授業でした。また今回私が参加した SEP では日本人 2~3 人に対し、現地のバディが 1 人ついてくれ、同じ部屋で住み、3 週間ほとんど一緒にいたので、常に英語を話す環境があったことは良かったところだったと思います。このことから英語を話す力が、流暢に喋れるようには程遠いですが、大きく伸びたのではないかと考えています。また英語を聞く力に関しても、日本にいる時より英語を聞く時間がかかり長かったので、より聞き取れるようになったのではないかと考えています。また英語



ディベート大会の様子

を、勉強の科目ではなく、コミュニケーションするために必要なツールとして捉えることができようになりました。そして、もっと自分の言いたいことを分かりやすく言えるようになりたい、相手の言っていることを適切に聞き取れるようになりたいと SEP を通して感じる事ができ、英語の勉強に対するモチベーションを大きく上げるきっかけとなりました。そしてこのプログラムで 1 番印象に残っているのが、ディベート大会に参加したことでした。このディベート大会は例年とは異なり、ディベートする人が事前に決められていて、運よく大会に私は参加することができました。しかし実際に参加してみると、自分の言いたいことを適切な英語で瞬時に話すのは難しく、もどかしい思いをしました。しかし SEP に参加する前の学会での苦い経験を思い出し、この大会を乗り切ることによって自分が成長できるのではないかと、頑張っただけで出来るだけディベートに積極的に参加しました。そして同じチームの子の助けもあって、優勝することができ、その時は少しでも自分が成長できたような気がして、嬉しかったです。ディベート大会もそうですが、この SEP では、英語の授業や様々な企画のなかで、人前に立って何かをするという機会が多く、度胸がついたというような英語以外の面でも貴重な経験ができたと思っています。

そして2つ目は、異文化交流に関してです。マレーシアは多民族国家であり、実際に行ってみると複雑な民族構成を感じました。主にマレー系、華僑系、インド系がいて、現地のバディも同じように構成されていました。また私のバディはマレー系のムスリムであったので、食べられないものがあったり、祈祷する時間があったり等、異なる価値観をもつひとと一緒に生活することで、自分の価値観を広げることができました。ムスリムの女性が肌を隠すために身にまとっているヒジャブをお揃いでつけて、モスクに行ったことはとても新鮮で楽しかったです。また教科書やインターネットだけでは得られないムスリムの人たちから直接、宗教に関することなどのお話が聞けたのも、大変興味深かったです。日本にいるとこのような経験はできないので、この点に関しても SEP に参加してよかったと感じました。

そして3つ目は、何よりも最高の思い出ができたことです。マラヤ大学の GNC (Global Network Club) に所属する学生が SEP のローカルバディを務めてくれたのですが、彼らは皆、いつも本当に親切でした。3週間、私たちが楽しめるように綿密に様々な計画をしてくれて、そのおかげで3週間暇だと思ったことは1度もなく、毎日を楽しむことができました。平日の朝食と昼食は大学で食べ、夕食は大学の外で食べる必要があったのですが、バディはいつも違う店に連れて行ってくれ、マレーシアの複雑な食文化にも触れることができました。また日中に受けていた英語の授業にもローカルバディたちが来てくれて本当に24時間一緒に過ごしていたような感覚でした。また週末や放課後にはさまざまなところへ連れてってくれました。バディと一緒に博物館に行っておマレーシアの歴史や文化をマレーシア人に解説してもらったのは、貴重な経験でした。またモスクにも連れて行ってもらい、イスラム教の文化を生で感じる事が出来、とても新鮮でした。さらにマレーシアには大きショッピングモールがいくつもあるのですが、そのうちのいくつかの大学から近いところに連れて行ってもらい、買い物を楽しみました。この他にもマレーシアの観光地に連れて行ってもらったりと、本当に充実した3週間でした。そしてホームステイでは大学の近くに住んでいたインターナショナルハウスとは違って、マレーシア人が住む家に泊まらせてもらうことが出来ました。私が泊まらせてもらった家はとても広くて立派な家でしたが、お風呂やトイレなど日本と違うところも多くあって、見るものすべてが新鮮でした。またホームステイ先の家族もとても親切で、英語が話せるお父さんと日本やマレーシアについて話をしたのがとても楽しかったです。このようにマレーシアに旅行に来るだけでは味わえないような貴重な経験を得ることが出来たと感じています。



マレー料理 ナシゴレン



プトラジャヤ (ピンクモスク)

私はこのような3つの理由から SEP に参加して良かったと感じています。このプログラムに参加していた人の多くは大学1、2年生だったので、4年生の私が馴染めるのか不安でしたが、日本人もマレーシア人もみんなフレンドリーで学年を超えて仲良くなることが出来て、本当に楽しかったです。また SEP に参加したローカルバディたちは、自分のバディであるかどうかに関わらず、みんなと仲良くしてくださり、私も色々なローカルバディと友達になることが出来ました。このプログラムが終わっても連絡は取っていて、また彼らにマレーシアに会いに行こうと思っています。もしこのプログラムに参加しようか迷っている方がいれば、是非参加してほしいですし、その方の背中を押すことが出来れば幸いです。



ホームステイ先